

コシヒカリを倒伏させない穂肥診断

本年のコシヒカリ生育は、田植え後の茎数増加が緩慢になり、6月下旬の葉色がやや濃く経過しています。このまま7月に入ると下位節間が伸長しやすくなり、倒伏につながります。7月の幼穂形成期の草丈、葉色等のデータから、倒伏を抑える穂肥診断の方法を説明します。

1. コシヒカリの分施体系の穂肥施用時期

コシヒカリは幼穂形成期前後に下位節間が伸長するため、1回目の穂肥時期は出穂前18日に施用し、そして2回目は出穂前10日に施用することが基本になります（表1）。

1回目穂肥は、節間長伸長に影響するので次の穂肥診断を実施しますが、2回目は影響が小さいので、基準量を施用してください。

表1 出穂期前日数と幼穂長の関係

出穂期前日数	幼穂長 (cm)	生育期・穂肥時期のめやす
24日	0.1	幼穂形成期（穎花原基分化始期）
18日	0.5～1.0	コシヒカリ1回目穂肥時期
10日	8～11	コシヒカリ2回目穂肥時期

2. 倒伏させないコシヒカリ1回目穂肥のめやす

出穂期までに曇雨天が多いと節間長が伸びやすく、倒伏につながるため、幼穂形成期の生育量（草丈×葉色）と幼穂伸長期間の天気予報を合わせて診断します（表2）。

表2 コシヒカリ1回目穂肥施用のめやす

幼穂形成期の 草丈 (cm) × 葉色 (SPAD 値)	幼穂伸長期間の気象予報に応じた穂肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
基肥：化学肥料 2500 未満 （有機入り 2400 未満）	○△	◎	◎
基肥：化学肥料 2500～2800 未満 （有機入り 2400～2700 未満）	×	×	○
基肥：化学肥料 2800 以上 （有機入り 2700 以上）	×	×	×△

◎：出穂前18日に基準量を施用 ○：出穂期15日前に基準量を施用 ×：施用しない

○△：直近の気象予報と葉色の推移を考慮し、遅め、控えめの施用

×△：原則として施用しないが、梅雨明け後に異常高温となった場合には基準量を施用

3. 下位節間伸長と倒伏の関係

幼穂形成期の節間長が 3.5 cm 以下であれば、1 回目の穂肥を窒素成分で 1 kg/10a 施用しても、出穂期 30 日後の倒伏程度を 3.5 未満に抑えられます（図 1、2）。もし、3.5 cm を超える伸長がある場合は、前号でふれたケイ酸資材をすぐ施用しましょう。

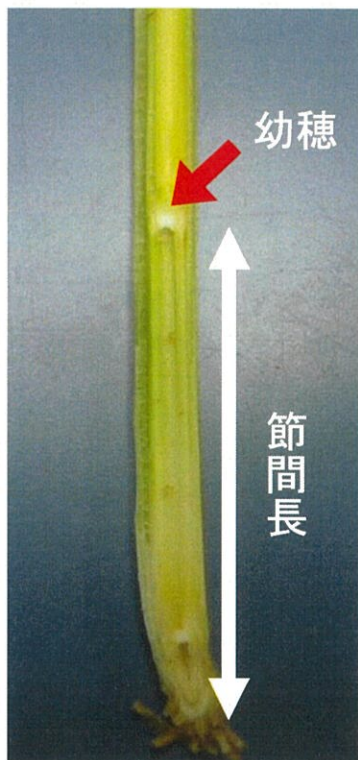


図 1 幼穂形成期の節間長

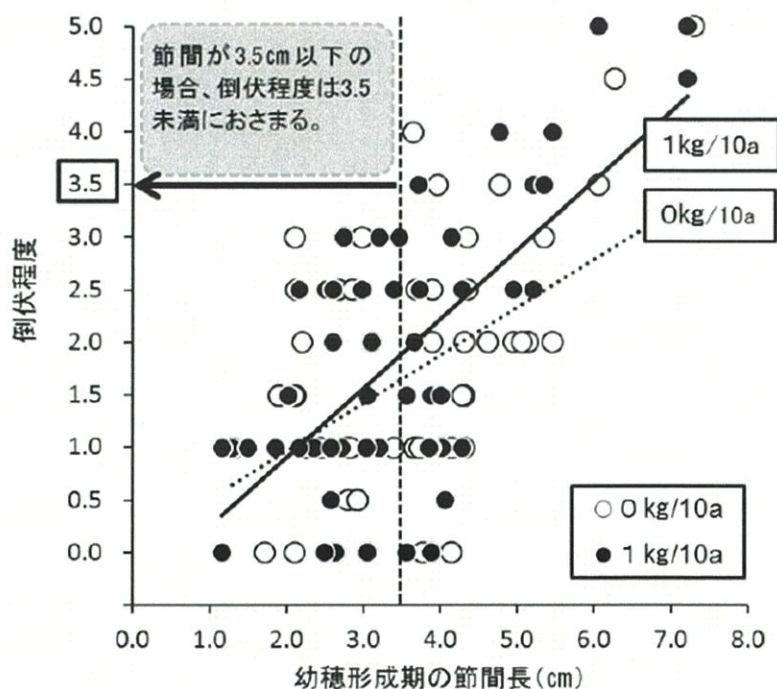


図 2 幼穂形成期の節間長と出穂期 30 日後の倒伏程度

4. 全量基肥施用の穂肥診断

全量基肥施用した場合には、穂肥分の緩効性肥料がすでに施用されていますので、穂肥の必要はないと思われますが、有機入りの全量基肥肥料を施用した場合は、穂肥分の施肥量が足りないことがあります。高温が予想され、出穂期 6 日前の葉色（SPAD 値）が 33 以下のときは、出穂期 6 日～3 日前に窒素成分で 1 kg/10a を施用し、後期栄養を確保しましょう。

（担い手・営農支援部 担い手・営農支援課）